

研究課題：腭炎に対する最適な画像検査方法についての後ろ向き研究

1. 研究の目的： 腭炎に対して、様々な画像診断方法が採用されるが、施行時期や最適な検査方法を明らかにする。
2. 研究の概要： 腭炎は小児にはまれであるが、慢性腭炎などの慢性炎症性疾患につながる重要な疾患である。重症度の判定、治療方法の確定のため、超音波、MRI、CTが行われる。しかし、これらの検査は、症状発症後いつ頃行えばいいのか、また、いつ頃最も増悪した画像所見となるのかの検討はなされていない。検査施行が早すぎると、炎症の評価が過小評価、また、遅すぎると治療の遅れにつながる。それぞれの検査手法による、画像所見の発生時期や、短所長所を明らかにすることによって、発症時や、経過観察の、それぞれの時期にあった適切な検査の選択が可能になると考えられます。
3. 研究の方法
研究期間は2000年9月から2019年9月までの腭炎が疑われた患者で診断のために超音波検査、CT、MRIが行われた症例を、検査時期、治療法、画像所見などを後方視的に調べます。
4. 研究期間
2019年12月から2020年5月までの6ヶ月間で、カルテを調べ、結果をまとめます。
5. 研究に用いる資料・情報の種類
超音波検査と、その後の経過を画像検査結果、カルテの記載から、病気に関する事柄（検査所見、治療方法）を調べまとめます。
6. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表
この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切わからないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この試験で得られたデータが本試験の目的以外に使用されることはありません。
7. 研究組織
研究分担医師：細川 崇洋

研究施設名：埼玉県立小児医療センター 放射線科
連絡先：330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2
電話：048-601-2200

8. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先
研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年2月29日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）